様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年５月７日現在

機関番号：３２６０６
研究種目：基盤研究Ｂ
研究期間：2008～2011
課題番号：２０３２００３９
研究課題名（和文）　戦争をめぐる表現と表象―日本近代文学・日本映画に関する中仏との比較研究
研究課題名（英文）Expressions and Representations of Modern War：Comparing Literature and Cinema in China, France and Japan

研究代表者　中山　昭彦（NAKAYAMA AKIHIKO）
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：80261254

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：映像表現、言語表象、日本近現代文学、危機の言説、戦争映画、戦争トラウマ

１．研究計画の概要

（１）第二次世界大戦を中心とする日本の近代の戦争において、国家の危機や民族の存亡の危機といった〈危機の言説〉が、どんなメディアを通していかに流布し定形化されていったのかを、中国、フランスの場合との比較を通して究明する。

（２）上記の〈危機の言説〉に対して、戦時下における検閲をかいくぐりつつ、どんな抵抗が文学や映画の表現・表象として生み出されたのか。それを中国、フランスの場合と比較しながら、当時は潜在的なものにとどまった表現にまで目配りして浮上させ、戦後の文学的映画的な表現・表象との関連性において捉え直す。

（３）潜在的なものも含めた抵抗の表現・表象があぶり出す戦争の別の側面、〈危機の言説〉と連動しつつ広まった戦争の紋切り型のイメージとは異なる性格を明らかにする。

２．研究の進捗状況

現在のところ、国家や民族の存亡に対する危機感を煽る言説の問題については、資料の収集と分析がほぼ完了しており、現代のテロなどに対して形成される類似の言説との関係も含めた考察が検討されている。

また、それに抵抗する表現・表象についても、戦時下だけでなく戦後への関連性を含めた分析が、小津安二郎、成瀬巳喜男、マキノ雅弘、清水宏などの映像作家と、坂口安吾、大岡昇平、中村光夫、福永武彦などの作家について、完成に近い形を整えつつある。中国とフランスの映像作家や作家との関連についてもほぼ見当がついており、残されている課題は、日本の戦後文学における抵抗の表現・表象の変化をより緻密に追及し、中国とフランスの作家の場合との関係をいっそう明確なものにする作業といえる。

他方、このような抵抗の表現・表象が間接的なものも含めて浮上させるものとして、戦闘や空襲による身体損傷やトラウマの問題が明らかになりつつある。このうち戦争トラウマの問題は、第一次大戦の頃から、特にヨーロッパおいて取り上げられるようになるものであり、そうした広範な視野に基づく把握が不可欠であることが解ってきた。

そのため、現在は、これまで継続してきた研究を更に完全なものにする作業とともに、戦争トラウマをめぐる歴史的資料や映像・文学関係の資料の収集と分析に努め、従来の戦争に対するイメージとは異なる戦争の性格を明らかにすべく、鋭意、努力を重ねている。この側面が明らかになれば、現在のテロや凶悪犯罪から生じるトラウマとの違いや共通点を含めた、戦争トラウマの性格が究明され、戦時下の映画や文学の表現が浮かび上がらせるものの意義をいっそう多角的に捉えられるようになると考えている。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

戦時下という時代のモードとしての〈危機の言説〉の究明や、それに対する抵抗の表現・表象の分析に関しては、ほぼ予定通り計画が進展している。ただ、抵抗の表現・表象が掘り起こす、戦争トラウマのような従来ほとんど問われて来なかった問題に関しては、関連文献の発見に時間がかかっただけでなく、予想以上の数の隠れた資料が存在してい

ることが解ってきたため、この種の資料の収集と分析に多少の遅れが出ている状態にある。

４．今後の研究の推進方策

（１）戦時下における国家や民族の存亡といった〈危機の言説〉に関する分析に関しては、ほぼ研究の最終段階に達しているため、研究代表者と分担者の協議をいっそう密にして最終的な取りまとめを行う。

（２）戦時下で支配的な〈危機の言説〉に対する抵抗という問題についても、ほぼ分析が終了しており、最終的な総合化をより完全なものにすべく作業を進める。また、そうした戦時下の抵抗と戦後の映画的文学的な表現・表象との関連に関しては、特にやや遅れている文学の分野の分析を押し進め、研究代表者と分担者の間で詳細に問題点を洗い出すとともに、戦後の映画との関連をも明確なものにする。

（３）抵抗の表現・表象があぶり出す戦争の別の側面、すなわち戦時下と戦後の支配的な言説が看過してきた問題群に関しては、隠された資料が多いことから収集と分析に遅れが出ている戦争トラウマの分野を重点的に進展させる。それを明らかにした上で、従来の戦争のイメージが看過してきた側面を総合化し、併せて研究全体の総括を行う。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

①佐藤淳二「＜啓蒙＞の臨界（Ⅳ）」、「層」4 号、68-94 頁、2011 年　査読有

②城殿智行「五〇年代の日本映画」、「社会文学」33 号、170－172 頁、2010 年、査読無

③中山昭彦「〈面〉の混濁（上）」、「層」3 号、174-194 頁、2010 年、査読有

④応雄「徳勒茲《電影２》読解：時間影像與結晶 、「電影芸術」19 巻８号、96－104 頁、2010 年、査読有

⑤中山昭彦「離接と放射―小津安二郎〈と〉女優たち（Ⅱ）」、「層」2 号、87-96 頁、2008 年、査読有

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計５件）

①中山昭彦他編『少女少年のポリティクス』青弓社、2009 年、286 頁

②十重田裕一『「名作」はつくられる　川端康成とその作品』ＮＨＫ出版、2009 年、174 頁

③中山昭彦（共著）『中日影像文化的地平線』中国電影出版社、2009 年、44－52 頁

④中山昭彦編『ヴィジュアル・クリティシズム』玉川大学出版部、2008 年、345 頁

⑤佐藤淳二（共著）『ノイズとダイアローグの共同体』筑波大学出版会、2008 年、450－469 頁、513－525 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

特になし。